

大行沢・カケス沢 遡行報告

【日程】7月30日(土)~7月31日(日)

【メンバー】CL 渡邊(三) SL 上茂 大塚 薄井(記録)

【山域】二口山塊 大行沢・カケス沢

【天気】2日間とも晴れ時々曇り

【コースタイム】1日目：駐車場 715-駒止の滝 1045-ナメ 1500-テン場 1530

2日目：テン場 645-北石橋 950-登山道 1215-小屋 1410-駐車場 1545

「天国のナメ」と言うのだそうだ。

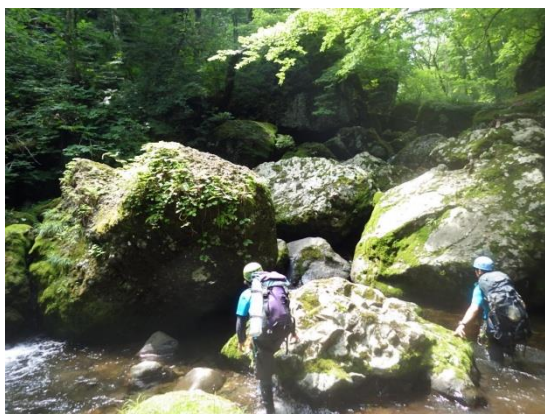
二口山塊の大行沢は、登山道がほぼ沢に沿っているので上部のナメだけ歩くことも可能。最初から歩こうと思えば、二口キャンプ場駐車場手前の橋のたもとにある階段を下って、30秒で入溪できる。

まずはゴルジュ、ついで巨岩帯を超えた向こうに天国があるらしい。

7時15分に前泊した駐車場を出発。ゴルジュ帯はいかにも滑りやすそうな斜面だが、ステップが切つてあるところも少なくなく、遠目に見るよりは歩きやすい。

釜の深いところを避けロープを張って通過していると、6,7人のパーティが追いついてきた。果敢に水に突っ込む攻めの登りだが、あんなに長時間浸かるのはどうも…若いから耐えられるのだろうか。

聞けば今日は大行沢、一旦駐車場まで下って翌日は小松原沢を遡行するとのことで、荷物も少ない。足取り軽く先行していった。



ゴルジュを過ぎると、文字どおりの「巨岩帯」となった。

高さ4,5メートルはありそうな岩には、草どころか木が生えていて、何だかアニメっぽい風景。しかし水は結構深く、ゴロゴロする隙間を抜けて歩くのは苦勞した。

駒止の滝で前のパーティに追いついた。SLがロープを引いて空身で登り、ザックを

先に引き上げてから登る。

少し斜度が出てきたが、巨岩帯はなかなか終わらない。

ふいに知った顔が現れ、軽やかに追い抜いていった。これまで二度ほど一緒に歩いたことのある地元の男性だ。何という偶然。

右折する二段の滝で前出のパーティがロープを出している間、彼は軽く挨拶して、颯爽とフリーで越えて行った。



遠くで雷が鳴り始めた。こんなところで降られたら嫌だなあと思っていると、まだかまだかと待ち焦がれた「天国のナメ」がようやく現れた。天国への道は長かった。

カケス沢の出合で、すでに泊まりの準備をしているパーティと遭遇。こちらが水面を移動するところへ手を振られると、ジャングルクルーズを思い出してしまう。

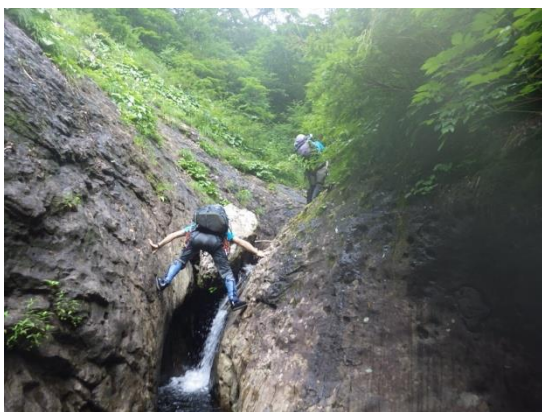
雷は遠くに去ったようで、私たちも数百メートル先の右岸を今夜の宿とすることにした。

沢泊はようやく3回目だ。慣れたメンバーにすっかりお任せしてしまい、やったことといえばネギを切ったのと味噌を溶いたことくらい。ウイナーもマシュマロも豚汁もイワナも、みんなおいしくいただいて就寝した。

夜中に隣でござごそしていたメンバーに足をつかまれ、この世ならざるものを見てしまいそうで明かりがつくまで目を開けられなかったのは、ここだけの秘密。

翌朝、6時45分にテン場を出発。出合まで戻り、対岸の登山道脇に市指定ゴミ袋（に入れた荷物）をデポしてカケス沢へ入る。

スタートから小難しい滝だった。狭いゴルジュに次々と出てくる滝は、どれもちょっとだけ難しい。登れる人は登れるのだから、要は私が登れないのだ。



ゴルジュを抜けると、北石橋が見えてきた。岩壁にあいた巨大な穴から水がさらさらと落ちてくる。思わず見とれてしまう自然の造形美だった。

大休止後、穴をくぐって登っていく。この後は少し斜度のあるナメの滝が続き、幅が狭くなってくると稜線がぐんと近くに見える。

遡行図の「奥の二俣を左」を頼りに、稜線の近そうな左俣に突入。すぐそのようになかなか抜けられないヤブをかきわけ、12時15分、登山道に抜けた。



靴を履き替えて登山道を下るが、これがヤブこぎと変わらないような道だった。

暑い中をブーブー言いながらも歩いて小東峠に到着。ここから山寺まで8キロとのことで、仙台から山寺まで歩けるとは知らなかった。

いくつもの沢を渡り、昨日雨だったら泊まる予定にしていた樋の沢避難小屋に到着。水場の水が冷たくてたまらなくおいしい。

出合に戻り、荷物をまとめてさらに下る。右下に大行沢を見ると、まだ巨岩帯。長いんだけど。歩き疲れた頃、キャンプ場の嬌声が聞こえるようになり、15時45分に駐車場に帰り着いた。

秋保温泉は混んでいるようで、日帰り入浴お断り。極楽湯仙台南店で入浴し、帰途についた。